

2012年9月19日

医薬経済・イノベーション評価研究会(略称:キヤノンHTA研究会)

2012年9月12日(水)開催 第五回研究会記録

<東大「医療技術評価」国際シンポジウム>

世界で急拡大する「医療技術評価」を展望する ～欧米、アジア、そして日本の針路～

・2012年9月6日東京大学伊藤国際学術研究センターにて、東大公共政策大学院とキヤノングローバル戦略研究所との共催。

・シンポジウムに参加した当キヤノンHTA研究会メンバーより、シンポジウムの中で韓国ポン・ミン・ヤン教授、マイケル・ドラモンド教授がPHC(Personalized Healthcare)について述べられたが、日本でのPHCの経済評価についてどう考えるべきかという質問あり。そのため、そのPHCのテーマを中心に、鎌江より台湾で開催されたISPOR第5回アジア太平洋会議についての報告があった。

<ISPOR 5TH ASIA-PACIFIC CONFERENCE 報告>

・2012年9月2-4日台北で開催された。

・当研究所の鎌江が第3基調講演および問題討議(Issue Panel)の2つのセッションでPHCに係わる講演を行った。

・PHCの臨床アウトカムについては、期待されるほどのベネフィットがない場合も多々あり、エビデンスの解釈に慎重さが求められる。

・PHCをすすめるためには診断方法の開発が必須であるが、診断方法の確立は難しく(特にゴールドスタンダードの問題)、PHCに残される課題は多い。

・医療の経済評価ガイドラインにPHCにおける評価ガイドラインを別途に制定している国はまだないが、今後はPHCの問題に特異的なガイドラインの項目設定や項目内容の修正は必要となるかもしれない。

<次回の開催について>

予定していた第六回の開催日は下記のように変更する。

変更前:10月24日(水)17時30分-19時30分

変更後:10月25日(木)17時30分-19時30分

(記録:研究会メンバー 菊地、鎌江修正)